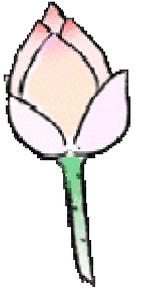


天目



安禅制毒龍

安禅 毒龍を制す

新年明けましておめでとうございます。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

さて、毎年京都の清水寺で発表される「今年の漢字」。昨年末は「安」でしたね。しかしこの字を見て素直に「安心の安」と感じた方は少なそうです。それよりも「不安の安」、「安楽関連法案」、「安い」など負の面で捉えた方が多かつたのではないのでしょうか。

お釈迦様の出家の理由は四苦(生老病死)に苦しむ人々を救いたい、すなわち安心させたことの願いからです。そしてお釈迦様の悟りとは「大安心を得た」ということです。そのお悟りの体験から、苦しんでいる全ての人に安心を与えたいと説法されたわけです。釈迦入滅後2500年が経った現代は、たくさんの方や情報が溢れ、医療も進化し、何もかもが便利な世の中ですが、はたして安心できる世になったと言えるでしょうか。人々のこの不安はむしろ増え続けているようにも思えます。では不安の正体は何ですか。

「不安なところ」には実体がなく、日陰や暗闇のようなものです。暗闇に光が当たると、その暗闇は瞬時に消え去りますが、暗闇という物体がどこかに行ってしまったわけではありません。暗闇は光の欠如であって、初めから存在していません。不安なところも然り、そこに光が当たると不安は瞬時に消えてしまう。その光を「智慧の光」と言いますが、その光に照らされて自分自身で「安心」に気が付いていく。しかしみんなそれほど強いところを持っているわけではなく、忙しくてこのケアにかける時間もなくて、実際は外的要因に大きく影響を受け、簡単には安心できないもの。それでも実体のない安心と不安、その前者を得られるよう自分でこのころを整えていく、そのために坐禅をし、毒龍(煩惱の例え)を制する、というのが我が宗門です。

本来、お寺は安心を得るための場所、和尚は安心を説き、安心を与えるべき存在でなくてはなりません。拙僧などはとてもそんな和尚たりえませんが、少しでもそう有りたいと昨年も檀信徒の法要や坐禅会、宝物風入れ展に合わせての囲炉裏カフェなど、多くの人と膝を突き合わせて話す機会も設けてきました。今年もより一層お寺をみんなの心の道場として使ってもらえるよう、申年の今年は「不安を拭いサル」気持ち忘れずに精進することを誓願として、新年の抱負にします。

住職 青柳真元 合掌



建長寺檀参記

昨年の九月二十七日に日帰りで鎌倉旅行に行きました。今回は私の父が住職を務める甲府市の永泰寺、耕念寺との合同企画として、三カ寺の檀家さんが一緒に建長寺を参拝。

総勢八十一名と予想以上の大人数でしたので、二班に分かれて三門楼上と僧堂を特別拝観。龍王殿での御祈祷には、管長猥下に御出頭をお願いし、導師をお勤めいただきました。通常では、個々の御祈祷に管長さんは一切お出ましになりません。「みなさん、今回の檀参は本当に特別だったんですよ。」

120畳の大広間「応真閣」で昼食。午後には半僧坊や門前の円応寺、鶴岡八幡宮を自由に参拝。小町通りで両手いっぱいにお土産を買い、江ノ島近くにある日蓮宗の本山「龍口寺」をお参りして帰路につきました。

日帰りの旅でしたがそれほど無理もなく、我ながらいい企画で楽しい旅だったと思います。ご参加いただきました皆様ありがとうございます。



宝物風入れ展 盛況

私が栖雲寺の住職になってからの六年、総代さんやボランティアガイドの助けを借り、おかげさまで毎年続けております宝物風入れ展は、今年から囲炉裏カフェも本格的に開店。今年は甲州市に文化財課が新設されたこともあり、この宝物展には市もかなり力を入れてくれました。またテレビ・ラジオ・新聞などでも大きく取り上げてもらったおかげで、宝物展は大盛況、カフェは満席、多くの人に栖雲寺の魅力を味わってもらえたと思います。甲州市長が足を運んでくださったことも大きな喜びです。

ただ、駐車場が少ないため道路に駐車車の列が長く伸び、天目区の皆様には多大な迷惑をおかけしたことは反省しております。課題は多いですが、今後も続けてまいりますので、ご協力よろしくお願いします。



平成二十八年の予定

- 三月十七〜二十三日 春季彼岸
- 四月十七日 摩利支天大祭
- 七月十六日 盆棚経廻り
- 七月二十七日 開山忌
- 八月十三日 盆棚経廻り
- 九月十九〜二十五日 秋季彼岸
- 十月二日 大施餓鬼会 並びに
- 十一月十二日、十三日 武田信満公六百年遠諱
- 十二月三十一日 宝物風入れ展 除夜の鐘

※坐禅会、法話、写経会、境内案内等、可能な限りお受けします。電話でお気軽にお問い合わせください。